

epoch

エポック No90

～千代田区生涯学習推進委員会議だより～

平成27(2015)年3月 発行



第10期第4回 概要報告

平成27年、初エポックです。今年もよろしくお願いします。

平成26年12月12日、第4回生涯学習推進委員会議が開催されました。平成27年度実施予定のモニターコースについて実施案が示され、本格開校に向けての有意義なモニターとするため、委員からは活発な意見が挙がりました。

恒例の事例紹介では、埼玉県久喜市の「久喜市 市民大学」について取り上げています。

以下、概要をお伝えいたします。



(仮称)生涯学習大学 モニターコース実施案



●生涯学習コーディネーターとは？

生涯学習コーディネーターは、生涯学習活動、地域活動の担い手として、地域住民の生涯学習活動を支援する。

人と情報、人と人、人と学習資源を適切に結びつける調整機能を果たす人材。

●モニターコース 講座のテーマ例示

「発見力」～ミル・キク・感じる千代田の魅力～

⇒「生涯学習コーディネーター」の役割と意義を学び、異なる価値観の大人同士の「関係づくり」と「場づくり」を学びあう。

※4つのキーワード※

- ・異なる価値観の捉え方
- ・肯定的関心
- ・実践の振り返り
- ・ファシリテーション力



●受講対象者

在住・在勤・在学、その他社会教育及び生涯学習活動者 等

●定員：約30名



●講座1回の流れ

①アイスブレイクの実施

※アイスブレイク…各場を和ませ、話し合いをしやすくするための雰囲気作り

②事前課題(宿題)による、聴き合い、話し合いの場づくり→関係づくり

③担当講師による各回のテーマについての解説・質疑応答・総括

④挨拶・各回の振り返り・連絡事項

⑤講座アンケートの実施



●事前課題(宿題)の目的

全8回の講座の中で、受講者同士がより充実した関わり合いができるよう、事前に「伝えたいこと、想い」を書き出す。こうした振り返りのプロセスが他者とのコミュニケーションにおける第一ステップとなり、地域の仲間づくりのきっかけを促すことにつながる。

●ファシリテーターの参加

各グループに、過去のコーディネーター養成講座受講生からなる「ファシリテーター」を1～2名参加させる。受講者に自分の未来像を肌で感じてもらい、具体的な目標を持っていただく。

【カリキュラム案 ※全 8 回】

- 第 1 回（専門科目）：「異文化交流とは？」「多様・多層な価値観との向き合い方とは？」
- 第 2 回（専門科目）：「ボランティア活動であなたが大切にしていることは？」
- 第 3 回（専門科目）：「伝わるかかわり方・伝わりにくいかわり方とは？」
- 第 4 回（専門科目）：「あなたがイメージする生涯学習コーディネーターとは？」
- 第 5 回（基礎科目）：「あなたにとっての千代田区の魅力とは？」
- 第 6 回（演習科目）：グループ別課題制作①
- 第 7 回（演習科目）：グループ別課題制作②
- 第 8 回（演習科目）：グループ別企画案プレゼンテーション大会



意見交換

- 生涯学習大学を創設するにあたって、まずボランティアやコーディネーターというふうに受け取ってしまいがちだが、ほかにも柱を十分検討した上で創設に向かった方がいいのではないかな。
- 観光案内など、最初からすべてを一気にやるのは少し現実離れする可能性もあるということで、ひとまず既存事業のコーディネーター養成コースを活かす形で始めて行ければいいと思う。今後、徐々にコースを展開していくような構想はある。
- 他の自治体の例でも、コーディネーターやボランティアという視点を取り入れており、自治体の中で学習機会が自主的に広がればいいというような期待がある。
- 生涯学習コーディネーターはようやく少し形になってきたところなので、今後はコーディネーターの居場所や、威力をより大事にすべき。区だけが行うのではなく、地域の方々も力を付けていくことが大切だと思う。
- 千代田区としては、地域づくりの関係を重視していることから、コーディネーター・ボランティアは鍵になってくるだろう。
- コーディネーターが一体どういうものかということは、今年度の話し合い、来年度のモニターコース実施の中で一番大事になってくる部分だと思う。全 8 回というコースの案も、今までの事業よりグレードアップしていると感じた。
- 地域の方に見えるように活動していくことが大切。実際に体験できるような形にしていけたらいい。
- 教育実習のような形をイメージすると分かりやすいかもしれない。地域の方々にも、どこかで実際に動いている様子を見てもらわないと分かりづらい。
- 活動の様子を分かりやすく見てもらった上で、地域活動に携わる各々がもっと積極的に動いていく必要がある。
- モニターコースを 8 回やっていく中で、講師の方々の役割というのは非常に重要だと思う。

「久喜市 市民大学」について

1. 「久喜市 市民大学」概要

- 目的：市民の生涯学習活動やボランティア活動の理解を深め、まちづくりの指導者やリーダーを育成する。
- 対象：久喜市内在住者で、30 歳以上（募集を行う年の 4 月 1 日現在）の者
- 実施概要
 - ・定員：各学年 40 名
 - ・受講期間：2 年制
 - ・年間受講料：9,000 円（保険料等含む）

その他現地視察研修費、学年会費



・授業回数：

1 年生→30 講座（金曜日 19 回、土・日曜日 9 回、その他 2 回）

2 年生→20 講座（水曜日 9 回、土・日曜日 10 回、その他 1 回）

※1 講座 1 単位、約 90 分授業



2. 「久喜市 市民大学院」概要

●目的：市民大学を卒業した者で、より専門的な研鑽を積み、主体的に学習課題や学習方法を選択して研究を深め、生涯学習の指導者としての知識を高める。

●実施概要

・定員：40 名以内

・受講期間：1 年制で、ゼミナール方式

※市民大学の 1、2 年生も聴講可能

・年間受講料：1 万円（保険料等含む）

学生個人に関わるものは負担あり

・学習内容：①自然・環境群

②教育学・心理学群

③生涯学習群

④文学・歴史群

⑤健康・福祉群



※上記①～⑤の学習群から各学生が選択し、少人数学習を行う。

意見交換

○先日、講師として久喜市市民大学の講座を受け持った。60 代の方はたしかに多いが、一方で 30 代の方も混じっている。講演や講義中心の授業だが、主体的で楽しそうな様子だった。

○前回までの事例紹介では、藤沢市はどちらかというと単発の講座を好きなだけ受けるタイプ。中野区は 3 年という長さで、かつ授業を平日の昼間に行っているということから、現役世代はなかなか参加が難しかった。ちょうどその中間にあるのが今回の久喜市の事例だと思う。

○大学院もあることで、2 年では物足りないという、継続して勉強したい方のニーズにも応えている。

○藤沢市の事例紹介の中では、受講生を集めることが課題になっていると言っていたが、久喜市は大分来ているとのこと。

○久喜市は、通常の大学 2 年、プラス大学院 1 年といった形になっていて、ある程度整っている。今まで事例紹介で挙げてきた中では、千代田区の理想とする形に近く、参考にできる部分は多いと思う。



（仮称）生涯学習大学の制度設計（案）について ※事務局より

1. スケジュールと基本構想

・まずは平成 27 年度のモニターコースで、実証実験を行う。モニターコースの実施、データ収集、検証・課題抽出作業を進め、その間、生涯学習推進委員会議の場でも意見を出し合い、問題点を解決していく。

・平成 28 年 4 月には九段生涯学習館に事務局を立ち上げ、生涯学習コーディネーター養成コース、ボランティア養成コースの 2 コースを 5 年の間で開講する。

・学習メニューは「基礎科目」「専門科目」「演習科目」の 3 つで構成する。

・定員は約 30 名、2 年制の大学をイメージ。



・卒業者は各種人材バンクに登録し、それぞれの地域に入って地域活動で活躍したり、コーディネーターとなって自主グループを立ち上げたりなど、地域活性化にも繋げたい。

・将来的には、卒業者が（仮称）生涯学習大学の事務局を手伝い講座の講師を受け持つなど、直接参画していただくことを目標としている。



2. 学校等との連携協力

・区内の大学、専門学校、図書館や、区が行っている文化事業、スポーツ事業との連携を想定している。

・その他区内で活動している文化団体や芸術団体にも積極的に協力を要請する。

「つながり」

鈴木 やす代

○(仮称)生涯学習大学の事務局と、区の文化スポーツ課は、どのような形で連携を行うのか。

⇒区の直接の関与は、場合によっては阻害要因にもなりえるため、文化スポーツ課職員が直接事務局に入るのではなく、担当者を置き、事務局の監督・指導を行う形になる。生涯学習推進委員が将来的に事務局に参画していただくことも可能であると想定している。

○開校後、区民はどこへ行って講座を受講するのか。

⇒規模が拡大していけば当然変更はあるが、当面は九段生涯学習館や日比谷図書文化館等の区立施設になる予定である。

○当初の5年間で開講していく予定のボランティア養成コースとはどういったものを想定しているか。

⇒あくまで希望ではあるが、観光ボランティア的な要素も入れていきたい。オリンピック・パラリンピックを控えた内容も盛り込んでいきたいと考えている。

○定員が30名となっている、実際どの程度が最後まで出席し、卒業できているのか。千代田区でも課題となる部分だと思う。

⇒講義型の授業では、最終的に3、4割まで参加者が落ちてしまうことが多い。アイスブレイクを入れたり、毎回受講生同士でコミュニケーションを取って仲間意識を持つことで継続に繋がる。9割程度の受講生に卒業していただけることを目標としたい。

○一般的には、出席率が3分の2程度になってしまうと、「あとに繋がらない」と感じる方が脱落していく、という情報がある。受講者全員が卒業までいきやすい雰囲気づくりを上手く行っていくことも課題になる。

○地域のいろいろな方が参加して企画を立ち上げていくとなると、やはり個人の熱意が大切になってくる。そのためには、同じく熱意を持った講師の方が必要になると思う。

いよいよ生涯学習コーディネーター養成講座がはじまりました。町会の掲示板に貼られた“地域力”の文字が目を引きます。

“コーディネーター”にはどのような能力がも求められるか、それはどのように身につくかといったことを主催者が掴んでおくことが必要ではないかと、会議で一人の委員が言った意見を思い出します。話は変わりますが、隣席の委員とは今期もご一緒です。地域も近いので、まえから気になっていた、コミュニティスクールの落語会のことをお聞きしました。ご近所の老舗のうなぎ屋さんがもう10年近く、知り合いの落語家さんたちをよんでしているということです。こういう方も“地域力”を担った人のひとりでしょう。

もう終わってしまいましたが、12月のはじめの1週間は障害者週間で区役所1階ホールで団体、福祉法人、企業がそれぞれ活動内容を紹介したり、また歌などのイベントもあります。先日、そこで、ひとりの御婦人が声をかけてくださいました。「新しく千代田区に移ってきたのでいろいろ知りたいと思い見に来ました。」とのことでした。長く千代田区に住んでいる人、新しく住み始めた人、毎日仕事で来る人——皆それぞれの多様性からコーディネーターというものを紡いでいただけたらと思います。

～ 編集後記 ～

第10期第4回のエポックは、モニターコースの実施や開校後の制度設計等、具体的な意見交換を中心にお送りいたしました。

また、お忙しい中リレー随筆をお引き受けいただきました鈴木委員に、心から御礼申し上げます。

次号エポックも、よろしくお願いいたします。

【編集／発行】

千代田区 区民生活部 文化スポーツ課 〒102-8688 千代田区九段南1-2-1

TEL : 03 (5211) 3632 / FAX : 03 (3264) 3988

E-mail : bunkasupotsu@city.chiyoda.lg.jp